

日・タイ2青年が奮闘中

剣 淵

初体験にも「頑張ります」

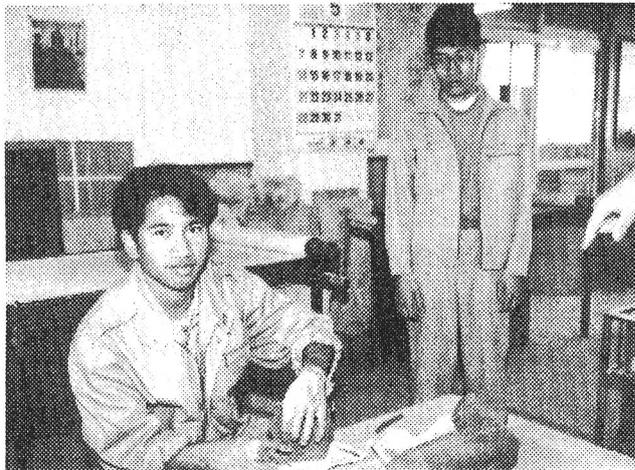
西原学園、北の杜舎で活躍

【剣淵】社団法人・日本青年奉仕協会が行う派遣事業を通じ、北島和成さん(三ハ)佐賀県、スクニミト・ブラウイットさん(三ハ)タイの青年ボランティア二人が、西原学園、北の杜舎で活動中だ。来年二月まで滞在し、障害者福祉の現場を中心に、入所者の活動を手助けする一方、自らも大いに体験を深めるプログラム。初めて経験することも多いが、入所者との共同生活を楽しくむなど新しい生活にもすっかりなじみ、「頑張ります」の声も弾ませている。

同協会では、一年間ボランティア計画のプログラムとして、各地に青年を派遣している。派遣先も青少年教育、福



北の杜舎で農業活動を支援する北島さん(左から2人目)と同施設の仲間



ウィットさんは、西原学園で農業の活動を手助けしている

祉、産業、自然保護」など多彩。九年前からは、アジア交流事業にも取り組み、アジア各国からボランティア青年を受け入れ、国内青年とともに各地へ派遣している。

剣淵町では、西原学園が同協会の会員登録を行っており、昨年度に初めて東京から大学生の藤田研さん、タイの団体職員ニソさんの二人を受け入れた。二人は二月まで活動し離町。今回、これに続く形で新しく二人が訪れたもの。

北島さんは、佐賀県から来町。県のユースワーカー協会などで、会社勤めのかたわら青少年の育成ボランティアとして活動してきた。一方、愛称がウィット、というブラウィットさんは、タイか

ら。コンケン大学の大学院生で、昨年度訪れたニソさんとも顔見知り。日本や剣淵のことも教えてもらったという。

ともに来年二月まで滞在。現在、北島さんが北の杜舎、ウィットさんが西原学園でボランティアとして、入所者の作業活動などを支援しているが、両施設では二人にさまざまな体験を深めてもらおうと、十月からは活動施設を交代してもらうプログラムを計画している。障害者福祉の現場での活動が中心となるが、両施設では絵本の里づくりはじめ、まちづくり活動にも積極的にかかわっており、こちらの方面でも活動してもらいたいと考えて。「入所者にとって面白い刺激になる。大いに交流し、体験も深めてほしい」と二人のこれからに期待している。

四月下旬に来町した二人は、入所者四人といっしょに現在、寮で共同生活を送っている。ウィットさんはボランティアのほか週二回、剣淵高で農業に関する講義を聴講するなど、新しい生活にも意欲的。サップロビールの大ファンにもなったという。北島さんも、入所者とはすっかり打ちとけ、口をつけて冗談も飛び出すほど。「福祉ボランティアは初めてですが、すんなりと入れました。何かをつかめるよう頑張っていきたいですね」(北島さん)と張り切っている。